例会佳句

謹賀新年――今年は西暦2018年、平成30年。昭和から変わってもう30年。歳月の経つのは早いもので、昭和も遠くなりにけりである。

正月は初詣に出掛ける人が多い。元日に氏神、あるいは恵方(その年の歳神が降りる方角)に当たる社寺に詣でる。除夜詣の人たちが境内で除夜の鐘が鳴り終わるのを待って、そのまま初詣をする光景をよく見かける。さぞいい年になるだろう。

若水は元日の朝にまず汲む水である。除夜の鐘が鳴ると、年男が恵方の井戸に行き水を汲む。川の水の場合もある。汲んだ水で雑煮を炊く。新年を迎えて水も若返り、その水を飲むことで、生命を更新する願いがこもっていたのだろう。現在では多くの家に水道があり、若水が手軽に汲める。水道に感謝の念を持ちたいものである。

正月にはお屠蘇を飲む。元旦の祝膳に祝儀として飲む薬酒である。生薬などを絹の小袋に入れ、酒に浸して作る。元朝にお屠蘇を飲むと、一年中無病息災に過ごすことができるといわれ、邪悪なものを屠(ほふ)り、新しく蘇るの意で、「屠蘇」の字が当てられたという。年酒は年賀の客に出す酒のことで、屠蘇酒とは別のものである。

(ゴシックの俳句は会員互選の上位句) (四季の会 世話人)

コスモスや灯台守の官舎跡 Gパンに着替えて巫女の夏休 霧の尾瀬ふと見失ふ友の影

千葉 加藤浩雲

川霧を分け一舟の影淡し 風軽し萩の唐招提寺道 コスモスの中にしばらく乳母車

大阪 加 藤 あ や

行く秋の旅人となり蔵の街 青柿の四かく四面の顔もてり 定まらぬ風にコスモスゆるるのみ

神奈川 森 京子

高原の朝霧晴れて牛の群れ 秋桜の色に染まるや河川敷 越天楽舞ふ人雅月の夜

東京 坂 本 秀 浩

法師蝉里の夕べを閉じゆけり 廃屋の草の蹂躙秋暑し 里の道コスモス揺るる休耕田

兵庫 高 森 功 一

露天風呂浮かぶ名月桶に汲む 天空の城に広がる霧の陣

ス呈の城に広かる霧の陣 名月や鉄橋渡り夜汽車行く

東京 中 西 麦 人

箱根路のバスのあとさき霧走る 泣き虫の吾子の思い出虫の夜 高原の空気は旨し群れとんぼ

神奈川 中 本 萬 里

霧走るぬっと出そうな裕次郎 老農の休耕田に秋桜 語り部の民話棒読み秋暑し

千葉 安 彦 緑 泉

被災地の学び舎統ぶる朝の霧 隣接の村がひとつに秋桜 かなかなの小雨の森に沈む声

宮城鈴木わかば

夫婦鷺濠の緑道飛来せり コスモスやかくれんぼの声聞こゆ 霧の朝ノッポビル群首ったけ

千葉 門 脇 耕 水

キャンバスの空きを埋めたる夜なべかな 腹一杯後は寝るだけ良夜かな 千枚田コスモス風になびきけり

東京 坂 本 州 賢

婆婆に手一杯の穂草かな 夜霧立つ三江線や宿探す 往きてなを秋山深し人棲めり

東京 北 誥 南 風

水道・下水道人の俳句の会 「四季の会」入会歓迎

申込先 〒102-0074 東京都千代田区九段南4-8-9 日本水道会館内 日本水道新聞社気付 「四季の会」世話係 まで